

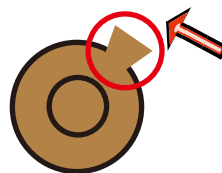
# ③砂行1号古墳



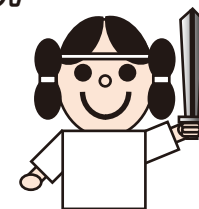
砂行1号古墳 遠景



銅鏡（変形神獸鏡）出土状況



造り出し部とは  
墳丘に付随して設けられる  
方形台状の施設のこと



データ

時期	5世紀前半
墳形	円墳
規模	直径22m
埋葬 主体部	木棺直葬

砂行1号古墳は、丘陵の最も高い位置に立地する。表面に  
ふきいし  
葺石を施し、造り出し部を伴う円墳である。埋葬主体部を2  
箇所確認したことから2回の埋葬があったと考えられる。そ  
のうちの一つの主体部から銅鏡（変形神獸鏡）が出土した。